

安全データシート

飼料添加物

ヨウ化カリウム

連絡先:

会社名 日本ニュートリション株式会社

住所 東京都港区南青山一丁目 1 番 1 号 新青山ビル西館 22 階

電話番号: 03-5771-7890

FAX 番号: 03-5771-7894

緊急連絡先: 03-5771-7890

作成年月日: 2022 年 2 月 7 日

1. 化学品名及び会社情報

化学品の名称	ヨウ化カリウム
供給者の会社名称	日本ニュートリション株式会社
住所及び電話番号	東京都港区南青山一丁目 1 番 1 号 TEL:03-5771-7890

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	区分に該当しない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	分類できない

ヨウ化カリウム (2 版)

健康有害性	鈍性化爆発物	区分に該当しない
	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入: ガス)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 粉じん)	分類できない
	急性毒性 (吸入: ミスト)	区分に該当しない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分 1B
	生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響	追加区分
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (甲状腺)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (皮膚、甲状腺、全身)	
環境に対する有害性	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期 (急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分に該当しない
	オゾン層破壊物質	分類できない
GHS ラベル要素		
絵表示またはシンボル		
注意喚起語	危険	
危険有害性情報	眼刺激 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ 授乳中の子に害を及ぼすおそれ 臓器(甲状腺)の障害 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(皮膚、甲状腺、全身)の障害	
注意書き	【安全対策】	

ヨウ化カリウム（2版）

使用前に取扱い説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じんを吸入しないこと。

妊娠中／授乳中は接触を避けること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】

気分が悪いときは、医師の診断/手当を受けること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当を受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	ヨウ化カリウム
慣用名又は別名	ヨウ化カリウム
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS No. 7681-11-0
成分及び濃度又は濃度範囲	99%
官報公示整理番号	(1)-439（化審法・安衛法）

4. 応急措置

吸入した場合	異常を感じたり、気分が悪くなった場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移動する。 症状変化が現れた場合には、直ちに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぐ。 付着した製品を拭き取り、水又は微温湯で洗い流しながら

ヨウ化カリウム（2版）

	石鹼を使って良く洗い落とす。 外観に変化が見られたり痛みが続く場合には、速やかに医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	水で数分間以上洗浄した後、直ちに医師の手当てを受ける。 洗眼の際、まぶたを指で良く開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄する。 コンタクトレンズを使用している場合には、固着していない限り、取除いて洗浄する。
飲み込んだ場合	水で口の中を洗浄し、コップ 1-2 杯の水又は牛乳を飲ませて吐かせ、直ちに医師の手当てを受ける。 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。
急性症状及び遅発性症状 の最も重要な徴候症状	吸入 : 知見なし 皮膚 : 知見なし 眼 : 知見なし 経口 : 知見なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	棒状水、霧状水、粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂など周辺火災に適した消火剤を用いる。
使ってはならない消火剤	特になし。
火災時の特有の危険有害性	製品中にハロゲンを含有しているため、火災時に刺激性、あるいは有毒なヒュームを放出する。
特有の消火方法	この製品自体は不燃性であるが、周辺火災の場合は以下の措置を行う。 火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止する。 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 容器、周囲の設備などに散水して冷却する。 消火活動は、安全な距離を確保し、可能な限り風上から行う。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、状況に応じた保護具を必ず着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業の際は保護具（8. ばく露防止及び保護具措置の項を
---------------------------	--

ヨウ化カリウム（2版）

	参照) を着用し、接触及び粉じんの吸入を避ける。 風上から作業し、風下の人を避難させる。
環境に対する注意事項	環境への影響を起こさないよう、河川などに排出しない。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	飛散したものをすくいとり、又は掃き集めて、密閉できる 空容器（ドラム缶など）に回収する。
二次災害の防止策	作業後、手、顔などをよく洗い、うがいをする。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	取扱いは換気の良い場所で行い、粉じんが発生しないよう にする。 吸入、皮膚への接触を防ぎ、又、目に入らないように適切な 保護具を着用する。 取扱い場所の近くには、手洗い、洗眼などの設備を設け、取 扱い後に、手、顔などをよく洗う。
安全取扱注意事項	みだりにヒュームや粉じんが発生しないように取扱う。 取扱う場合は、局所排気内又は全体換気の設備のある場所 で取扱う。
衛生対策	接触、吸入しない、又は飲み込まない。 取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業着は作業場から出さないこと。
保管	
安全な保管条件	保管場所には取扱うために必要な採光、照明及び換気の設 備を設ける。 直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて保管する。 密閉し、乾燥した冷暗所に保管する。 法規に規定された基準に従って保管する。 混触禁止物質：酸化剤、強還元剤。
安全な容器包装材料	ガラス容器、樹脂容器、ポリ内装紙容器など。
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	情報なし。
許容濃度（ばく露限界 値、生物学的指標）	ACGIH(2008年度版)：TWA 0.1mg/m ³ （ヨウ化物とし て） ¹⁾ 日本産業衛生学会 勧告値(2020年度版) 未設定
設備対策	取扱い場所には、全体換気装置を設置する。

ヨウ化カリウム（2版）

できるだけ密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具 防塵マスク、送気マスク、空気呼吸器

手の保護具 保護手袋

眼、顔面の保護具 保護眼鏡、ゴーグル

皮膚及び身体の保護具 安全帽、保護長靴、保護服

特別な注意事項

衛生対策：取扱い後はよく手を洗うこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 固体

色 白色

臭い 無臭

融点／凝固点 681 °C ²⁾

沸点又は初留点及び沸点 1323 °C ²⁾

範囲

可燃性 不燃性

爆発下限界及び 不燃性

爆発上限界／可燃限界

引火点 不燃性

自然発火点 不燃性

分解温度 知見なし

pH 6-8 (5%水溶液)

動粘性率 知見なし

溶解度 水に易溶 (148 g/100g, 25°C) ²⁾

アルコール、グリコール、グリセリン、アセトン、エーテル、アンモニアに可溶。

水溶液は珪素をよく溶かす。

n-オクタノール／水分配 知見なし

係数 (log 値)

蒸気圧 0.10kPa (767°C)

密度及び／又は相対密度 3.12g/cm³ ²⁾

相対ガス密度 知見なし

粒子特性 結晶もしくは粒又は結晶性粉末 (2.5mm 以下)

ヨウ化カリウム (2 版)

その他のデータ	データなし
10. 安定性及び反応性	
反応性	データなし
化学的安定性	通常の保管取扱い条件下、乾燥空气中で安定。 僅かながら潮解性がある。空气中で長期間放置すると、ヨ素を遊離して黄色味を帯びる。光と水は分解を促進する。 水溶液は分解黄変し易いが、微量のアルカリが存在すると分解が抑制される。 ²⁾
危険有害反応可能性	加熱すると分解し、K ₂ O、I ₂ などの有毒なガスが発生する。 ジアゾニウム塩、ジイソプロピルペルオキシジカルボナート、三フッ化臭素、三フッ化塩素、フッ化次亜塩素酸、金属塩、塩化水銀 (I)、その他の酸化剤と混合不可。 ³⁾
避けるべき条件	加熱、酸化剤や強還元剤との接触。
混触危険物質	酸化剤、強還元剤。
危険有害な分解生成物	酸化カリウム、ヨ素、ヨ化水素。
11. 有害性情報	
急性毒性	
経口	LDLo 1,862mg/kg マウス ⁴⁾ LD50 2,779mg/kg ラット ⁵⁾
経皮	データなし
吸入 (蒸気・粉じん・ミスト)	データなし
皮膚腐食性／刺激性	知見なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギの角膜に 3%ヨ化カリウム溶液を適用したところ、僅かな刺激性を認めたのみで、刺激の程度の評価点は最大 100 に対し 17 であった。 ^{2), 6)}
呼吸器感作性又は皮膚感作性	知見なし
生殖細胞変異原性	知見なし
発がん性	ACGIH による発がん性評価でヨ素及びヨ化物として A4(ヒトに対する発がん性と分類しかねる物質または P ^o ペス)に分類されている。 ¹⁾
生殖毒性	妊娠中のウサギ及びシンクに経口投与したところ、仔の生存率低下あるいは出生数減少が認められている。 ⁶⁾

ヨウ化カリウム（2版）

	<p>この情報としては甲状腺腫を発症した幼児について、母親が妊娠期間中にヨウ化カリウムを摂取していたとする複数の報告があり、また幼児の甲状腺機能低下も報告されている。⁷⁾ 母乳中への移行が認められ、乳児に皮疹や甲状腺機能抑制を起こすことがある。⁸⁾</p>
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	<p>ヨウ素の急性過剰摂取は、一過性の甲状腺ホルモンの産出を低下させる。⁷⁾ 致死中毒または致死に近い中毒で認められた毒性症状では、腹部の激痛、血性下痢と消化管潰瘍、顔と頸部の浮腫、肺炎、溶血性貧血、代謝性アシドーシス、肝脂肪変性、腎不全がある。⁶⁾</p>
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	<p>当該物質を含む薬剤を投与された患者に甲状腺肥大や甲状腺機能低下が見られ、一方甲状腺機能亢進を示す複数の事例もある。^{6),7)} 長く摂取、吸入するとヨード中毒症を起こし、鼻炎、頭痛、吐き気、咳、喀痰が現れ、肺水腫をきたす。また皮膚の発疹、座蒼もしばしばみられ、まぶた、のど、唾液腺の腫脹をきたすことがある。</p>
誤えん有害性	知見なし

12. 環境影響情報

生態毒性	魚類(ニジマス LC ₅₀ =896mg/L 96 時間) 4)
残留性・分解性	知見なし
生体蓄積性	知見なし
土壤中の移動性	知見なし
オゾン層への有害性	知見なし

13. 廃棄上の注意

化学品（残余廃棄物），当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄，又はリサイクルに関する情報	<p>残余廃棄物：都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関係法令を遵守して適正に処理する。</p> <p>多量の水を入れた容器に徐々に加え、少し過剰のソーダ灰を攪拌しながら加える。希塩酸で中和してから大量の水で希釈して廃水処理する。</p> <p>汚染容器及び包装：空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。</p>
--	--

ヨウ化カリウム (2 版)

14. 輸送上の注意

国連番号	非該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	運搬に際しては容器の破損、漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷の内容に積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報	非該当

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質管理促進法 (PRTR 法)	非該当
労働安全衛生法	施行令 18 条の 2 別表第 9 (名称等を通知すべき有害物) (606 号 沃素及びその化合物)
毒物及び劇物取締法	非該当
飼料安全法	飼料添加物 (ヨウ化カリウム)

16. その他の情報

<記載内容について>

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改定されることがあります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合は用途、用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。記載内容は情報提供であって保証するものではありません。

<引用文献>

- 1). 2008ACGIH 化学物質と物理因子の TLVs & 化学物質の BEIs ((社)日本作業環境測定協会)
- 2). HSDB : Hazardous Substances Data Bank (NLM, 2006)
- 3). Sax' s Dangerous Properties of Industrial Materials (1995)
- 4). GHS 分類データベース : NITE (独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- 5). GESTIS : GESTIS Substance Database (Access on Dec.2015)
- 6). CICAD No.72 Iodine and Inorganic Iodides (2009)
- 7). ATSDR : TOXICOLOGICAL PROFILE FOR IODINE (2004)
- 8). 増補改訂 ヨウ素綜説 (霞ヶ関出版、1974)

<参考文献>

- 毒劇物基準関係通知集 (薬務公報社、1991)
- 産業中毒便覧 (医歯薬出版、1994)

ヨウ化カリウム（2版）

- GHS 対応ガイドライン（一般社団法人 日本化学工業協会 2019）
- JIS J7253 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
- ラベル、作業場内の表示及び安全データシート SDS（日本規格協会 2019）

版	日付	内容
初版	2021年9月3日	—
2版	2021年2月7日	JIS 改正に合わせて改訂